



ほうきさん 2016年1月

椋本673 存仁寺

十二の光
放ちては
あまたの国を
照らします

「和訳正信偈」

一年頭の辞

新しい年のはじめにあたり、ご挨拶申し上げます。

すでにご案内の通り、本年十月一日より来年五月までの十期八十日間にわたり伝灯奉告法要をおつとめいたします。

本願寺の御影堂において、宗祖親鸞聖人の御前に、第二十五代門主として法統を継承したことを奉告いたします。親鸞聖人が説かれて以来、およそ八百年の間、浄土真宗のみ教えは、日本をはじめとして世界各地で説かれ、受け継がれてきました。このたびの法要では、ご参拝の皆さまと共にそのことをよろこび、次の世代の方へと伝えていく決意を新たにいたしたいと思えます。浄土真宗のみ教えを聞かせていただく私たちは、阿弥陀さまのはたらきの中で、自分自身の真実の姿に気付かされます。それは、物事を自分にとって都合がいいように考えたり、自分自身のことを正当化する、自己中心的な姿であります。しかし、社会において、皆が自分の正当性を主張したのでは、対立しか生みません。浄土真宗のみ教えを聞き、阿弥陀さまのはたらきの中で生かされている私たちは、困難なことではありませんが、少しでも自己中心的なあり方から離れ、他の人々と共に幸せに生きていけるような社会を築くことが大切です。浄土真宗のみ教えを依りどころとして、日々の暮らしを送るとともに、ご縁ある方へもみ教えを依りどころとした生き方を伝えてまいりましょう。伝灯奉告法要には、ご縁ある方と共にご参拝くださいますことを願っております。

大谷光淳 ご門主 二〇一六年 本願寺新報・大乗一月号より

光壽無量 新たな年を迎えました。室町時代、本願寺第八蓮如上人と時同じくされたと言われます一休禪師が、「門松は(元旦や) 冥途の旅の一里塚 めでたくもありめでたくもなし、ご用心なさい、ご用心なさい」と詠い、杖に髑髏を刺して京の都を歩き回られたという逸話が残っています。正月めでたい、めでたいと浮かれてしまっているが、この世は無常の理、老いていくことの歎き、病の苦しみ、死にゆく悲しみは時を選ばない、今ここにある自分のいのちを見つめよう、今ここに生きることの不思議さ、尊さを感じよと、一休さんの話を通じて聞かせていただきます。現代は毎日が正月のような華やかさを呈していて、いのちのありようを見失ってしまう事、考えないよう、見ないふりをしていくことがあります。「とにかく今がよければ」と目先のこと、自己満足にとらわれた日暮をしています。しかし、一年の節目、季節の節目、人生の節目などに自分を見つめる余裕を持ちたいものです。昨年は、生後間もないいのちの別れ、仕事帰りに突然のお別れなど悲しい別れの現実が沢山有りました。暮れにも、いつもお世話になり、ご尽力下さり、壮年会ではバーベキューや温泉などと、まだこれからもずっと一緒に時間を共にさせて頂きたかった大切なお方が、人生を終えられました。周りの方々のショックも、悲しみも大きいことです。

「生者必滅、会者定離」とはいえ厳しいことであります。「別れ路の 程は遥かにへだつれど ころは同じ 華のうてな」と、またこの世の縁が尽きた時會わせていただきましたよう、俱会一処のであいをむねとして、お互いに弥陀の本願を聞信し、お念仏申しつつ一日一日を大切に日々歩ませていただきますように。

住職



1月の行事



- 1日(金) 6時30分 おあさじ
6日(水) 19時30分 コーラス
10日(日) 仏教壮年会本山御正忌参拝
14日(木) 10時 無量寿会例会新年会
16日(土) 6時30分 おあさじ
17日(日) 13時 仏教婦人会班長会
24日(日) 10時 日曜学校・子ども会新年会
31日(日) 仏教婦人会報恩講法要・総会

1月9日(土)～16日(土) 本山御正忌報恩講法要
念仏のふるさとへご参拝しましょう

宗派・教区・鈴鹿組関連

- 1月 7日(木)花まつり実行委員会 19時 光明寺
18日(月)教区第3回実践運動研修会・新年会
「現代若者事情」勸学 浅田恵真さん
名古屋別院
20日(水)～21日(木)東海教区仏教婦人会
「御同朋の社会をめざす運動」研修会 鳥羽
27日(水)連研のための研究会 別院
29日(金)鈴鹿組僧侶・寺院女性研修会 常信寺

2月の行事予定

- 1日(月) 6時30分 おあさじ
14日(日) 正月汁 中組
16日(火) 6時30分 おあさじ
18日(木) 無量寿会例会
21日(日) 日曜学校・子ども会
28日(日) 還暦の祝い
13日(土)～16日(火)名古屋別院報恩講法要



仏教婦人会報恩講法要

お同行皆さま 是非ご参拝下さいませ
1月31日(日)午後1時30分より
法話 四日市 内田正祥師
法題「願わくは此の功德を以って」
—報恩講さまの赤いお蠟燭—

※法要後総会がありますので会員さんには
ご出席宜しく願いいたします。

還暦のお祝い

2月28日(日) 午後3時より還暦のお祝いを
持たせていただきます。今年は昭和30年
(1955年) 生まれの方が対象です。
還暦を迎えられた方はお寺まで
お知らせください。



「十二のひかり 放ちては

あまたの国を 照らします」

一月の第二月曜日は成人式です。ひところは荒れた新成人が話題になったものですが、その対応にも少々智慧が必要なようです。騒いだりして周りに迷惑をかけるものに対する応対としては、「静かにしろ」と叱責するか、力をもって排除するか。いずれにしても、毅然とした態度で対抗すべきと考える方が、まだ主流のように見えます。しかし、それは、騒ぐ者の自己顕示欲と反抗心という火に油を注ぐだけの結果になりかねません。目指している地点を得る道は、「対処」ではなく「共感」と「承認」こそあるように思うのです。ルールから外れるものに対して、ルールを守らせようとする行動をとるのは当然です。ただ注意したいのは、ルールを守らせるのを目的化しないことです。手段と目的を取り違えない。そして、人を生かすのは毅然とした一律な命令ではなく、一人ひとりのそれぞれを照らすひかりです。そのひかりのはたらきを、『正信偈』では「十二のひかり」とお示しくいただきました。「限りなく(無量光)どこまでも広がり(無辺光) 何ものにも遮られず(無碍光) 並ぶものなく(無対抗) いきいきと(光炎王) 清らかに(清浄光) よろこびを与え(歡喜光) 惑いを除き(智慧光) 常に(不断光) 私の想像も表現を超え(難思光・無称光) 現実の光が及ばないところをも照らし出す(超日月光) 智慧としての、ひかり、その中で私は今、生かされています。